

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104365
法人名	有限会社 ベストケアライフ
事業所名	グループホームかわかみ 山の家
所在地	鹿児島県鹿児島市川上町1854-1 (電話) 099(243)7735
自己評価作成日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍であっても人間らしく、一瞬一瞬の喜び、悲しみ、楽しみ等を入居者と職員がともに過ごし心を通えるような生活支援を心掛けている。立地的な環境の元、気候の良い時季には中庭を活かした散歩、日向ぼっこをはじめ、花見等のイベントを小規模ながら事業所内で取り組んでいる。家族との関わりが希薄になっていく一方であるこの状況下にも関わらず、電子ツールを利用したオンライン面会をはじめ、活動の様子を把握していただけるような静止画(写真)、動画をこまめに送る事で出来ている事、出来なくなっている事もより解りやすいように情報の提供を行っている。長年勤めてくれているスタッフが馴染みの環境である為、入居者にとっても人的環境が不安定になる自体が少ないといえる。職員間では、日々更新される入居者の身体・精神状況の把握のために、グループライン等を活用し、状態の共有、医療側との進捗状況、服薬調整への配慮、様々な点での統一が逐次できるようになってきた。職員間での議題を各種設けた勉強会を通じて、受動的に成らず積極性を持って研修に参加する気持ちを育んでいけていると思われる。よりスタッフ間での力量の差を縮め学びを深めながら介護技術、知識の定着、レベルアップを図る工夫を研鑽したいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の安心安全を常々念頭に入れた支援を心掛け、入居者と職員相互的に助け合って暮らしを続ける意義を理解している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍での接触を相互的に避けた状況であるも地域密着型サービス事業所として一体感の責務を全うしていきたいと考えている。再開を検討中である。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の民生委員や前町内会長等の方々とのつきあいを通じて地域で困っている方の事例を教えていただく事で次へのステップの足掛かりを検討するなど行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族は状況を見ながら開催出席を促し運営サービス内容の説明などを行うが、コロナ禍になり外部者を招集するに至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	様々な事案の相談をさせていただいている。党事業所での困難事例などはこれまでの取り組みを報告し、助言を貰い改善に努めるなど実施してきた。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	厚労省の手引きを元に身体拘束がどのようなものなのか、それをするによる身体・精神両面の弊害を想定しながらどうしてえいけば良いのかを事業所一丸となって考え取り組むようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の勉強会で各人が学びの機会の中で本件も取り扱うようにしておりどのような事が虐待にあたるのか、特にスピーチロックに重点を置いて皆で検討し、学びを深める努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年度は勉強会の中でも取り上げたが、現況として制度への理解は深まっていない。当事者になる事例が実際ある場合でなければ定着が難しいため、機会を作り再度学ぶ場を設ける予定でいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時はどうしても緊張や初めてのことで深い理解をしていただくには難しいと思われる。事例を用いて各事項を丁寧に説明するようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍での外部者を交えての会議等が予定を組むことが難しい。年1度は状況を鑑みながら開催できるよう努め、アンケート調査等を含め意見の集約を心掛け反映するようにしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営方針は職員会議などの場を通じて伝えている。方針に向けて現状何が出来るのか、改善点の洗い出し、試行を繰り返していきながら職員の思いに近い方向性を導き出すように努めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人員不足、加齢が負担となり各職員に無理をさせていると思う。環境整備、求人を常に積極性を持って率先して進め実績を各々が見出し易くしていきたいと思っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会において各分野で各々が考える議題（テーマ）別の学びを今年度は取り組んでいる。各人が調べて発表をし、日頃のケアに反映しているよう工夫をしている様子が見える。法人外での研修への参加も徐々に広げ新しい事を吸収できるよう進めていく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入しており会主催の研修会などを通じネットワークが広がっている。事例検討発表等により各施設での困りごと、対策などよく分かる場として活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化で不慣れによる精神的不安は大いにある。ユニットリーダーを主体に聞き取りを進め統一したケアを行えるようスタッフ間の連携を徹底し信頼を得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事例を挙げながら利用する上での不安や思いを引き出し、要望を踏まえてでえきることの範囲なども理解しやすいように繰り返し説明し祖語の無いように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体・精神状態から出来る事と出来ないことの違いを理解できるように双方の見解の不一致が生じないように気を付けている。特に経済的な問題なども念頭に配慮しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い、意思を優先させるように「業務」としてのケアになっていないかを考慮する。協同していく中で早めの状態変化に着目できるよう関係性を濃密にしていく努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴も視野に発言・行動の理由を考え、家族との関係性の機微も判断の要素に加えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	発言、仕草、生活リズムを把握したうえで一方的に決めつける物言いをせず、「待つ」事を大事に、本人の考えを吐露してもらえるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	異性、同性、お互いの相性がある為、不定期ではあるが席替え、向き等環境整備、人的関係性を注意し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後には、その後を家族に便りを出したり医療機関等に様子を尋ね、再相談を受ける等も受け皿がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の生活リズムがあるが、同じ棟の同居人の動向により同調したり強要したり人的環境に流されやすい状況下がある。タイミングや場所を配慮し思いの聞き取りをするようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の家族・様々なサービス機関からのある程度の情報をもとに支援を行うが、場面場面で馴染みの物等を思い出したり、家族も思い起こす事象がある為、報告時に集約するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	色々な伝達ツールを使用し、職員間で日中・夜間夫々の各入居者の生活支援で欠かせない心身状態の把握が行えるようになってきている。日々更新される為、情報のズレが減ってきた。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の課題においての実情（身体・精神状態）からズレの修正をする為に職員間でのミーティング、アセスメントで見直す等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>なるべく状況に則した記録を残せるように、声掛けの内容、反応、返答の事象、対応等注意するポイントを皆で確認している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その場しのぎの後手に回る支援ではなく、予測を念頭に行動把握を行い、ニーズに合わせる為の情報収集を他機関などの助言を踏まえて行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍での積極的な地域との交流を極力控えてきたが、相互的協力関係を行うためにも声掛け等順次再開する必要性を感じている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>認知症だけでなく持病も含めた状態変化が目まぐるしい。罹りつけ医への状態説明、支援の方法、家族への報告内容において常々細心の注意を払い取り組んでいる。状態に応じた適切な医療を受ける為に家族にも理解を深めていただく話し合いを不定期ながらも設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>基本の身体状態から個々に注目するポイントを押さえ、職員間での気づきを集約し、訪問時に合わせて都度確認、指示を得ながら適切な状態を保てるように連携している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療者、栄養士、相談員等各々の視点を確認し、当事業所で支援する際の注意点、方法等の指導を仰ぐようにしている。迅速な判断を得るために状態悪化における報告は職員間でも常々着目している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に概ねの流れにおいて、重度化、終末期の事業所の方針を説明している。入居当初は家族も想定困難な事もあるが、状態の報告をする都度、早い段階から説明を繰り返し意向確認の変化がないかの聞き取りを行うようにしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時、事故発生時の職員側のなすべき手順は常々声掛け確認を行っている。訓練においては、ヒヤリハット事例等から振り返りミーティング等を通して対応策を体で覚えるよう研修（勉強会）の場を設けている。職員間でも力量の差もある為、初期対応訓練をよりこまめに行っていきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練、消火訓練等数名の入居者の協力を貰いながら職員が体で覚えられるよう訓練している。なお、様々な災害を想定し、日頃からの避難経路の居室内の環境整備、定期的な物品廃棄、漏電防止の点検も清掃時に注意するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の勉強会の議題でも高齢者虐待防止法、身体拘束の基本を学んでもらい、実例としてケアの中に相手を尊重できていないケースが無いか等振り返る機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な決まり事（時間）のある程度の制約がある中でも意思決定をしてもらい、個々の行動・視線・表情を把握しながら行うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まりはあるが、協調いたきたい面を説明し、判断を待ってその先に繋げるよう声掛け誘導をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自身では気分が乗らない、何を着ても一緒というような話題はあるが、入浴・更衣時に季節柄、気温等を考慮した声掛けをし選択させ鏡を実際に見て様相が適切かを見ていただく等支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好の把握は基本として、口腔内状態（嚥下の適切）、認知症の進行を考慮しながら色合い、食事形態等を工夫している。自分で完食した達成感を持っていただくよう留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量は病状的に確認を合わせてチェック表を用いながらしている。状態に応じて医療側との確認の上、量の調節を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科検診を受けながら、口腔内の状態を職員も理解し、どのような歯磨きのアプローチが必要かをミーティング等で統一していきながら支援の段階を個々に見極めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の性格・身体機能・認知症の症状を見極めながら、出来るだけおむつ使用にならないような声掛け誘導を前提とする。時間帯を見ながらの配分をし、失敗時の心的ストレスへの配慮を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールの困難者はまずは水分・食事量・腸の運動の改善を行い、食事と共にヨーグルト等を摂取させている。心身状況から適量の運動（動作）を支援しながら医療側とも都度相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望も聞き取りつつ持病との兼ね合いを見ながら入浴の回数、時間帯の配慮を行う。入浴が困難な場合は足浴・手浴等も取り入れリフレッシュも取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に生活習慣が異なる為、夜は寝る、固定概念をなるべく押し付けないよう支援する。薬依存の方も少なくない為、医療側との調整により心身に支障のない量の調節を都度検討出来るよう情報の共有を図る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状における把握は各スタッフが出来よう都度書面にて通達している（電子ツールも併用）変更が生じた場合は、根拠と服薬上の注意点を周知させ見守るポイントを周知出来るように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の認知症の症状により出来る量や種類が様々である。日によって役割をまっとうできる時とそうでない時も流動的である為、表情・行動を見ながら声掛けをして役割分担への参加を見守りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>現況、コロナ禍が継続中である為、自由な外出は困難であり家族も望んではいるもののリスクを理解し控えている状況である。通院の必要な場合に、家族との面会も併せて同行をお願いし息抜きも兼ねている。少しでも室外の中庭散歩、中庭での茶話会等を取り込んで社会性を感じられるよう工夫。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と本人とのやり取りでどうしても金銭管理をしたいといった場合は金額の把握と、いつ何時紛失するかもしれないリスクは説明している。大概の方は所持している事はないが、慶弔への意向がある場合は家族同席のもと金銭の授受をしていただく等支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>季節のハガキ等を準備し希望に応じて書いていただくような支援をしている。電話においては家族の要望も踏まえながらつなげたり動画等送る事で納得されている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>採光は取り入れ、カーテン開け閉めは入居者の判断に任せるなど一端を担っていただいている。共用の空間ではソファで寛いだり家事手伝いの場として活用いただく。季節感を味わえるような張り紙や作品展示、庭木や花を活ける事もお願いしている。コロナ禍で換気に注意し、反面、寒暖差の訴えもあるため室温管理に留意している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のお気に入りの場所がだいたい出来上がっており、ソファでの座る位置、読書が出来る場所、スタッフと距離が無い場所での歓談、家事手伝い等状況に応じて居場所の提供をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での馴染みの家具、衣類、雑貨等持参いただき愛着のわく環境づくりへ留意してる。日向ぼっこするのが好きだと言われる方には家族の協力のもと座椅子を入れたりテレビを居室に持ち込んだり様々な聞き取りの元配慮するようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定、見当識の機能低下により居室を間違え等多々ある方であっても行動する前からスピーチロックをするような事が無いように手引き歩行や伝い歩き等声掛けし極力自立に近い環境で見守る事や、トイレでの排泄が困難になっている方においても出来る動作を声掛け、自尊心を損なわないよう誘導する心構えをしている。トイレ表示、名前札等を活用し自身でしていただけるような体制を作っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない